

# ひびき

教育目標：「なかよく かしく たくましく」  
3本柱：さわやか挨拶 聞き方・話し方名人 いきいき運動

多治見市立共栄小学校 H30. 6. 29

## 見せてくれた「力」を本物に！

5・6年生の宿泊行事が終わりました。それぞれの学年目標に共通していることは、ルールを守って楽しい行事にしたいという願いでした。5年生の活動では、自分たちでしおりを確認し、自分たちで動きを確認し、ルールを守りながら取り組む姿が大切されていました。6年生の修学旅行では、挨拶、時間行動、グループ行動等、決めてきたことを守りながら楽しく学ぶ姿がありました。特に大阪で大きな地震があり、余震も心配されたこともあり、自分たちでどんな危険があるかを事前に考え、どんな行動をしたら良いかを話し合ってから出発しました。どこで何が起こるかわからないこの時代、一人一人が意識し、しっかりとかまえて行動することが何よりの安全につながります。共栄小学校の子どもたちは宿泊研修を通して、自分たちで考えて動く力の礎ができつつあるなあと感じています。

どんな教育活動にも「つけたい力」があります。例えば、この宿泊研修で大切にされたことのひとつが自分たちで考えた「ルールを守る力」をつけることでした。規律を守ること、時間を守ること、研修が終わっても多くの子が大切にしようと頑張っています。頑張っているからこそ、研修で守れていたのに普段の生活で守れないという問題も以前より目立ちやすくなります。成長の証であると共に、しっかりと「つけた力」を振り返らせることが大切と思っています。これから思春期を迎える高学年という時期は、私たちも経験したように流行や大勢の言動に流されやすくてきています。何故ならば「将来のこと・異性のこと・現実と理想・友だち・勉強…」等、様々なことが次から次へと頭の中を駆けめぐり期待と不安が渦巻きます。自分ですべて片付けるだけの力はありませんから（大人でも難しい）楽なポジションを求めるのも無理はありません。だから、みんながルール違反をしていけば、ルール違反した方が楽なわけです。逆に多くの子が守っている場合は、守っていた方が楽なわけです。それでは守っている子も守ってない子も守ることの意味がわかっているのではなく、楽な生き方を選んでいるに過ぎません。子どもたちにとって、守らせるだけでは本当の力にはなっていないけません。その先がやはりあるのです。ルールの意味をよく考え、より良いルールにかえたり、皆の幸せのために新しいルールをつくったり、良くないルールをなくしたりする力です。そう考えると、例えば、最近の選挙の投票率、自分たちの力を発揮するチャンスを放棄している大人が半分近くもいることはとても残念ですね。子どもたちに示しがつきません。自分が使える力を発揮してこそ本物です。子どもたちには、簡単にあきらめず最善をつくせる大人になって欲しいものです。

将来のために、どんな力が必要か考え、その意味を問い続けることは、きっと可能性に満ちた将来の素敵な生き方につながると信じています。

